

都市建設部

令和元年度 重点目標

- 1 市内外の地域資源をつなぐ道路網の整備・促進
- 2 安全・安心な都市環境の整備と防災・減災対策の推進
- 3 「乗って残す」「乗って活かす」を基本とした公共交通活性化の推進
- 4 良好な都市・自然環境の保全と形成
- 5 コンパクトシティの形成に向けたまちづくりの構築
- 6 緑豊かな健幸都市空間の創出

令和元年度 重点目標管理シート

重点目標	市内外の地域資源をつなぐ道路網の整備・促進		部局名	都市建設部	優先順位	1位
総合計画における位置付け	第2編 自然・生活環境 安心・安全な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第1節 賑わいと交流のまちづくりに向けた道路網の整備・促進		まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	戦略4 ひと・地域の輝き戦略 施策体系⑤ まちとまち、人と人をつなぐ広域連携促進		
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け			上田再構築プラン「7つの挑戦」における位置付け			
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> 市内外の交流を円滑に進めるための道路網は、住民生活や経済社会活動を支える最も基本的な社会資本です。幹線道路網の交通混雑の緩和を図り、救急・防災機能を高めるため、また、観光を含めた産業振興やまちづくりの面からも、強固な交通体系の整備が急務となっています。このため、国道18号上田バイパス第二期工区を含めた都市環状道路とそれを補完する市道及び上田駅へのアクセス道路等の整備を促進する必要があります。 					
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 上田地域定住自立圏構想及び上田地域30分（サンマル）交通圏確立のための道路整備路線を柱に、幹線道路網の整備を促進することにより、渋滞緩和や安全確保が図れます。また、災害時の緊急輸送道路や生活道路としての活用が図れます。 主要地方道長野上田線を通じた千曲川左岸地域からの中心市街地へのアクセスの向上と、沿線の歩行者等の安全の確保と交通渋滞の緩和を図ります。 農業・観光を含めた産業の活性化と、移住などを含めた定住や住みやすい環境のまちづくり（基盤整備）に寄与します。 					
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
① ○上田定住自立圏構想等に位置付けられた広域幹線道路（長野県実施事業）の整備促進 (1) 主要地方道長野上田線（北天神町古吉町線） (2) 国道144号上野バイパス (3) 主要地方道別所丸子線柳沢バイパス (4) 主要地方道小諸上田線（町吉田～中吉田） (5) 国道143号青木トンネル	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月 (4) 4月～3月 (5) 4月～3月	○県で事業中であり、早期完成に向け、連携して協力します。	(1) 主要地方道長野上田線（北天神町古吉町線）に協力し、進捗が図られた。また、継続して先線の国道143号（北天神町古吉町線）の事業計画について、協議を進めた。 (2) 国道144号上野BPは、用地買収及び工事を実施中。 (3) R2.3完成を目標に工事中。 (4) H30年度で一部測量設計に着手し、ルート案を検討中。 (5) 防災・安全交付金として新規事業化。6月ルート案発表。	(1) 北天神町古吉町線（御所工区）の無電柱化工事が発注され、事業の進捗が図られた。進捗率42%。 (2) 用地3件契約完了し、用地取得率100%となった。工事は本線の一部を発注し、令和3年2月完了予定で施工中。 (3) R2.3.19に全線開通（L=1.4km）。 (4) 測量・概略設計を実施。今後地元との設計協議を進める。 (5) 青木峠バイパス工区として新規事業化。地質調査を実施。		
② ○上田地域30分（サンマル）交通圏構想実現に向けた幹線市道の整備推進 (1) 市道五反田新屋線 (2) 市道踏入大屋線 (3) 市道上田橋下堀線	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月	(1) 工事L=710m (2) 委託N=1件、用地N=8件、建物補償N=1件、工事L=250m (3) 用地N=3件、建物補償N=1件	(1) 五反田新屋線は工事発注に向けて準備中。 (2) 踏入大屋線は工事発注に向けて準備中。用地・補償は1件契約し、引き続き用地取得に努める。 (3) 上田橋下堀線は6月に境界・幅杭確認が完了し、用地取得に向け交渉中。	(1) 道路改良工事L=370mを発注し、10月全線完了予定で施工中。 (2) 用地5件（A=295㎡）契約。道路改良工事L=102mを発注し、6月末完了予定で施工中。 神川橋架替に伴う地元説明会を実施し、用地交渉中。 (3) 用地測量及び補償算定調査が完了し、用地交渉中。		
③ ○上田バイパス第二期工区の整備促進 (1) 用地買収・工事（橋梁等）	(1) 4月～3月	○国土交通省長野国道事務所事業中であり、早期完成に向け、連携して協力します。	(1) 事業の推進を図るため、各地区対策委員による対策委員会・連絡協議会を4月と6月の2回開催。用地買収に向け長野国道事務所と随時打合せを実施。新規工事の着手にあたり地元対策委員会を開催。	(1) 事業の促進を図るため、対策委員会・連絡協議会を12月に追加開催。大屋地区の神社移転に向け、委員会を開催。R元当初の新規工事は完了。追加工事の着手にあたり地元対策委員会を開催。R2.1月末時点の用地取得率（面積ベース）は、全体63%、上田市区間77%。		
④ ○産業振興や住みやすい環境づくりに寄与する道路整備の推進 (1) 市道下吉田久保林線（国道18号上田BP関連） (2) 市道中野小泉線バイパス（小泉2号線）	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 委託N=1件、工事L=100m、用地N=1件、補償N=4件 (2) 工事L=120m	(1) 用地取得に向けて不動産鑑定業務を実施中。道路線形の変更に伴う業務（用地測量、補償算定）発注に向けて準備中。 (2) 工事L=200mを発注済。	(1) 用地1件（A=202㎡）と補償（建物移転1件、借家人3件）の契約を締結した。また、R2年度事業推進に向け用地測量と補償算定業務委託を発注。 (2) 工事L=200mに着手し、現在8月完成を目標に施工中。		
⑤						
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 ・道路整備が進むことにより、沿線住民の利便性の向上や、圏域の地域間の交流が促進されます。		○取組による効果・残された課題 ①- (1) 一部の事業において、用地取得が難航している箇所がある。 ①- (2) 国道144号上野バイパスは、2期工区の用地取得が完了したことから、数年後の開通に見通しが立った。今後は、3期工区について、地元の意向を確認しながら、ルートを決定する必要がある。 ①- (3) (主) 別所丸子線・柳沢バイパスは、10年の歳月をかけて完成、供用された。通過交通と生活道路が区分され、地域の安全・安心に繋がった。 ①- (5) 国道143号青木バイパス（トンネル化）が交付金事業として新規採択された。松本地域との交流促進の一翼を担う。			

令和元年度 重点目標管理シート

重点目標	安全・安心な都市環境の整備と防災・減災対策の推進		部局名	都市建設部	優先順位	2位
総合計画における位置付け	第2編 自然・生活環境 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第3節 安全・安心に暮らせる環境の整備		まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	Ⅲ 上田市創生の基本方針ひと・地域の輝き戦略 4 住み良いまち・うえだの魅力アップと積極的発信		
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(1)住みたい住み続けたいと思うまちづくりへの改革 イ多様な主体が市政に参画・協働する制度づくり (2)支える財政基盤の改革 エ受益と負担のあり方の見直し		上田再構築プラン「7つの挑戦」における位置付け			
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> 市道は、老朽化が進み、更新・修繕が必要とする橋梁および舗装が増加の一途を辿っており、この対策が急務です。 平成22年8月の矢出沢川流域の豪雨災害に対し、県が平成23年3月に策定した上小園域河川整備計画(矢出沢川)を基本に河川改修工事を進めており、早期完成を図る必要があります。また、市街地中心部での豪雨災害が頻発しており、雨水流入の抑制を含めた総合的な治水対策に取り組む必要があります。 地震による建築物やブロック塀等の倒壊の被害や大気中に飛散する可能性があるアスベストから、市民の生命、身体又は財産を保護するとともに、その生活環境の保全を図るため、既存建築物の耐震化、危険なブロック塀等の除去、アスベストによる健康被害を防止し、災害に強い安心して住めるまちづくりを進めていく必要があります。 少子高齢化により全国的にも、空家が増加傾向にあり、適正な管理がされていないものや所有者不明なものも多く市内にも点在し、空家の利用や管理不全な空家等の解消が求められています。 公共施設は多数の人が利用し災害発生時には地域の拠点となることから、安全で安心な施設整備が求められています。老朽化が進んでいる市有施設については、公共施設マネジメント基本方針に基づいた施設の改築・耐震化・集約等の推進が必要です。 					
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 橋梁の更新時期を出来るだけ平準化する方法として、計画的かつ適切な維持修繕により橋梁の長寿命化を図ると共に、老朽化した舗装・トンネルの修繕工事をを行います。また、平成31年度から2巡目の橋梁の定期点検を行います。 上田市街地の豪雨災害を抑制し、地域住民の安全・安心な暮らしを守ります。 昭和56年5月31日以前の建築物で、大地震により倒壊のおそれのある既存建築物の耐震化(建替え)を図ること。または、危険なブロック塀等を除去することにより、大地震発生時の建物等の被害軽減が図られる。 吹付けアスベストの大気中への飛散防止をすることにより、アスベストによる市民の健康被害の防止と安全な生活環境を確保することができる。吹付けアスベスト等が、適切に処理されることにより、大地震発生時の二次被害を防ぐことができます。 空家化の予防・発生抑制、適正管理の推進、利活用の推進、管理不全な空家の解消等を行うことにより、安全・安心な快適環境、災害に強いまちづくりができます。 現行法の基準で公共建築物を整備することで、市民を含む多くの利用者の安全と安心を確保することができます。公共施設の集約により、将来にわたっての維持管理費の縮減が期待できます。 					
取組項目及び方法・手段(何をどのように)	期間・期限(いつ・いつまでに)	数値目標(どの水準まで)	中間報告(目標に対する進捗状況・進捗度)	期末報告(目標に対する達成状況・達成度)		
① 〇老朽化した道路構造物の長寿命化の推進 (1)幹線道路を重点に舗装の修繕 (2)橋梁及びトンネル長寿命化の推進	(1)4月～3月 (2)4月～3月	(1)舗装修繕工事5路線の実施 (2)小牧橋の耐震修繕工事委託(JR東日本)、橋梁修繕工事3箇所、野竹トンネル修繕工事、橋梁定期点検の実施。	(1)舗装修繕は3路線発注し、1路線が完了、2路線で施工中。残り2路線は年内に発注予定。 (2)JR東日本小牧橋耐震修繕工事委託実施中、橋梁修繕の2橋の工事発注に向けて準備中。橋梁定期点検委託業務、発注済。	(1)舗装修繕は5路線発注し、4路線が完了、1路線で施工中。 (2)JR東日本小牧橋耐震修繕工事委託実施中、橋梁修繕の2橋施工中。橋梁定期点検委託、高速道路部の跨道橋10橋は完了し、塩田地域の46橋は点検実施中。		
② 〇上田市街地の防災・減災対策 (1)神科台排水路整備 (2)矢出沢川整備 (3)千曲川国分地区築堤整備事業 (4)城下地区雨水排水対策の推進	(1)4月～3月 (2)4月～3月 (3)4月～3月 (4)4月～3月	(1)工事L=200m (2)上田建設事務所と連携し、早期完成に向け協力します。 (3)千曲川河川事務所と連携し、早期完成に向け協力します。 (4)雨水対策の全体像を描き、今後の方向性を定めます。	(1)神科台排水路は工事発注に向けて準備中。 (2)矢出沢川は、7月に住民説明会を開催し、詳細設計を実施中。 (3)千曲川国分築堤は工事発注に向けて準備中。 (4)雨水対策の全体方針が決定。	(1)排水路工事L=392mを発注し、7月完了予定で施工中。 (2)引き続き詳細設計を実施中。 (3)工事発注に向けて準備中。 (4)令和2年度当初予算に工事費等を計上。事業着手に向け準備中。		
③ 〇空家等対策の推進	(1)4月～3月 (2)4月～3月 (3)4月～3月	空家等対策の推進 (1)特定空家等判定基準の策定 (2)平成28年度調査の追跡調査と対応検討 (3)各種支援制度の検討・実施	(1)特定空家等判定基準は、策定済(進捗率100%) (2)Cランクの98棟については、追跡調査終了(進捗率100%)。引き続き、Bランク476棟の調査に向け準備中。 (3)関係機関との協定締結や補助内容等について、検討中(進捗率10%)	(1)特定空家等判定基準を9月に策定(進捗率100%) (2)老朽化が著しいCランク空家98棟の再調査は終了(進捗率100%)。引き続き、Bランク空家476棟の再調査を実施中であり、丸子・武石地域はすべて終了。(進捗率28%) (3)老朽危険空家の解体等を促進するための補助制度を新設(進捗率100%)、空家相談会を3回実施。		
④ 〇安全・安心な公共建築物の整備 (1)建築物の整備では、安全性が高く過不足のない適切な品質の確保を目指す。 (2)公共施設マネジメント基本方針に留意して行う。	(1)4月～3月	(1)武石地域総合センター整備事業 (2)丸子文化会館特定天井耐震化事業 (3)丸子統合保育園建設事業 (4)丸子地域自治センター庁舎耐震化・大規模改修事業	(1)武石地域自治センター整備事業は令和元年7月に着工、令和3年4月供用開始の見込み (2)丸子文化会館特定天井耐震化事業は令和元年5月に実施設計に着手、令和元年12月設計完了、令和2年7月着工の見込み (3)丸子統合保育園建設事業は令和元年10月に実施設計完了、令和2年1月着工、令和3年4月開園の見込み (4)丸子地域自治センター庁舎耐震化・大規模改修事業は令和元年10月に実施設計完了、令和2年1月着工の見込み	(1)武石地域自治センター整備事業は令和元年7月に着工、令和3年4月供用開始の見込み (2)丸子文化会館特定天井耐震化事業は令和元年12月設計完了、令和2年3月契約、同年7月着工の見込み (3)丸子統合保育園建設事業は令和2年3月着工、令和3年4月開園の見込み (4)丸子地域自治センター庁舎耐震化・大規模改修事業は令和2年1月着工、令和3年3月完成の見込み		
⑤ 〇民間建築物の耐震化や危険なブロック塀等の除去、アスベスト分析調査及び除去工事の促進 (1)民間建築物の耐震化の促進 (2)危険なブロック塀等の除去 (3)アスベスト飛散防止対策	(1)4月～3月 (2)4月～3月 (3)4月～3月	(1)耐震化の促進 ・耐震診断の実施(住宅) … 50戸 ・耐震診断の実施 … 7棟 (避難施設2棟・特定建築物5棟) ・耐震改修等工事の実施 … 28戸 (2)ブロック塀等の除去 … 100箇所 (3)アスベスト対策 ・分析調査の実施 … 13箇所 ・除去工事の実施 … 1施設	(1)耐震化の促進 ・耐震診断の実施(住宅) … 49戸 ・耐震診断の実施 … 0棟 ・耐震改修等工事の実施 … 18戸 (2)ブロック塀等の除去 … 27箇所 (3)アスベスト対策 ・分析調査の実施 … 0箇所 ・除去工事の実施 … 1施設	(1)耐震化の促進 ・耐震診断の実施(住宅) … 50戸 ・耐震診断の実施 … 0棟 (避難施設0棟・特定建築物0棟) ・耐震改修等工事の実施 … 19戸 (2)ブロック塀等の除去 … 37箇所 (3)アスベスト対策 ・分析調査の実施 … 0箇所 ・除去工事の実施 … 1施設		
特記事項	〇市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 ・老朽化した道路構造物の長寿命化の推進により安全・安心が向上します。 ・河川整備により周辺住民の安全・安心が向上します。		〇取組による効果・残された課題 ①(2)橋梁の長寿命化に伴い、高速道路部の跨道橋10橋の法定点検を行った。結果として富士見台橋がⅢ判定となり、早期の措置を検討する必要性が生じた。 ②令和元年・東日本台風による千曲川の増水は市民に大きな教訓をもたらし、防災・減災対策は、喫緊の重要課題であると再認識される機会となった。			

令和元年度 重点目標管理シート

重点目標	「乗って残す」「乗って活かす」を基本とした公共交通活性化の推進		部局名	都市建設部	優先順位	3位
総合計画における位置付け	第2編 自然・生活環境【安全・安心な快適環境のまちづくり】 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第2節 「乗って残す」「乗って活かす」を基本とした公共交通の活性化		まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	戦略4 ひと・地域の輝き戦略 施策体系③ 暮らしや観光に資する交通システムの維持・拡充		
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(1)住みたい住み続けたいと思うまちづくりへの改革 イ多様な主体が市政に参画・協働する制度づくり (2)支える財政基盤の改革 エ受益と負担のあり方の見直し		上田再構築プラン「7つの挑戦」における位置付け			
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・モーターレーゼーションの進展、少子高齢化の進行とともに、公共交通機関の利用者は減少傾向にあり、公共交通網の維持が困難な状況となってきた。環境面からの社会の見直し、また高齢者の安全上の問題などから、公共交通の必要性が改めて見直されてきており、公共交通による移動手段の確保が求められている。また、商業の活性化や観光振興といった観点からも公共交通の役割が再認識されてきている。 ・都市機能として不可欠なバス路線の維持確保に向けて運行を開始した運賃低減バスが、平成28年10月末から3年間の継続運行を実施している。期限終了まで、運賃低減バスの利用促進を中心としたバス交通全体の活性化に取り組むとともに、将来にわたり持続可能な地域公共交通のネットワークを確保するため、平成31年10月以降の本運行に向けた検討を行い、運賃低減バスの運行方針を示す必要がある。 ・急速に高齢化が進む中で、高齢者による高速道路の逆走やブレーキとアクセルの踏み間違えによる事故などが多発し社会問題となっている。高齢者等に運転免許証の自主返納を促す施策が求められている。 					
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃低減バス施策の推進により、モビリティマネジメントの推進、高齢者の外出支援による健康増進、交通渋滞解消、通学費の軽減等につながり、公共交通の活性化につながる。 ・別所線の存続により、地域住民等の移動手段が確保される。また、CO2の削減など環境問題への貢献が期待できるとともに、上田市の近代歴史文化のシンボルとなる。 ・運転免許証自主返納促進事業の推進により、高齢者の事故防止や公共交通の利用増などのきつかけとなる。 					
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
① ○運賃低減バスの推進とバス事業の総合的な見直し (1)運賃低減バス運行の推進 ・平成25年10月に開始した実証運行が今年9月で6年経過する中、10月以降の運行継続を推進する。 (2)人口減少・少子高齢化を見据えた運行の効率化 ・運賃設定、ルート、ダイヤ、便数等の見直し、及び廃止路線検討	(1)5/29上田市公共交通活性化協議会で運行継続を協議、関係団体との協議 (2)9月末 バス事業者、関係団体との協議	(1)10月以降の運賃低減バス運行推進 (2)運行効率化の施策の検討 24・25：99.5万人（24・25対比） 28年度：122.9万人（23.5%増） 29年度：120.3万人（20.9%増） 30年度：第3四半期（21.6%増） 31年度：120.0万人を目標	(1)5月の上田市公共交通活性化協議会で、運賃低減バスの運行継続が認められ、10月からの運行継続に向けた国との協議、市民周知（広報うただ9/16号、地域協議会等）を進めた。 (2)千曲バスの極めて深刻な運転手不足に伴い、路線バスの休止・減便、循環バスの委託事業変更の検討を進めている。	(1)5月の上田市公共交通活性化協議会で、運賃低減バスの運行継続が認められ、10月からの運行継続を実施している。 令和元年度：第3四半期（●%増・24-25対比） (2)千曲バスの極めて深刻な運転手不足、東日本台風災害の影響に伴い、12月28日から一部路線の廃止、休止・減便を実施した。		
② ○別所線の活性化に向けた利用促進 (1)別所線再生支援協議会を軸に、関係団体等と連携を図り、利用促進に取り組む。	(1)年度末	(1)輸送人員120万人の確保 輸送人員実績 27年度：129.9万人 28年度：131.3万人 29年度：128.0万人 30年度：129.9万人	・別所線再生支援協議会（5/21）、別所線電車存続期成同盟会総会（6/20）を開催し、利用促進策を実施中 ・5/25、別所線と走ろう、ラン&ウォーク ・9/14、別所線沿線写真撮影会 ・マイレールチケット（自治会回数券）の販売促進（春・秋）	<ul style="list-style-type: none"> ・別所線再生支援協議会（5/21）、別所線電車存続期成同盟会総会（6/20）を開催し、利用促進策を実施した。 ・5/25、別所線と走ろう、ラン&ウォーク ・9/14、別所線沿線写真撮影会 ・マイレールチケットの販売促進（春・秋） ・東日本台風災害に伴い秋のイベントは中止 		
③ ○別所線の安全対策の推進 (1)電車運行の安全性確保の観点から、国及び県と協調を図りながら、安全対策のための設備投資を中心とした支援を行う。 ・平成31年3月22日に締結した3年間の運行協定に基づき、公的支援を実施する。	(1)年度末	(1)安全運行のための設備投資・修繕の計画的推進	・別所線再生支援協議会（5/21）で、安全対策事業について協議の上、国に設備投資計画を提出し、工事に着手 ・今年度の鉄道事業に対する国庫補助率が割り落されたことから、長野県市長会総会（8/22）を通じて、地方鉄道への支援を要望	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本台風災害に伴い、千曲川橋梁が崩落したため、市が鉄道施設を公有化して、事業主体となり復旧事業を推進している。 ・3か年の運行協定に基づき、国・県と協調を図りながら安全対策事業を推進した。 		
④ ○しなの鉄道の安全対策の推進 (1)電車運行の安全性確保の観点から、国・県・沿線市町と協調を図りながら、安全対策のための設備投資を中心とした支援を行う。 ・平成31年度から、継続的な安全安定輸送の確保のための車両更新を予定 （8年間で最大52両、総事業費約106億円余）	(1)年度末	(1)安全運行のための設備投資・修繕の計画的推進 参考：上田市内 駅乗降客数実績 27年度：586.8万人 28年度：584.9万人 29年度：587.4万人 30年度： 万人	・しなの鉄道活性化協議会（7/3）で、安全対策事業について協議の上、国に設備投資計画を提出し、工事に着手	<ul style="list-style-type: none"> ・国、県、沿線市町と協調を図りながら、設備投資事業を推進した。 ・東日本台風災害に伴い、車両更新事業は実施途中である。 		
⑤ ○運転免許証自主返納促進事業の推進 (1)高齢者の交通事故防止や公共交通の利用増を図るため、運転免許証自主返納者に対しタクシー利用補助券の交付を行うことで、自主返納を促進する。	(1)年度末	(1)タクシー利用補助券交付申請者数 ・平成29年4月から実施 29年度：305人 30年度：330人 31年度：350人を目標	・交付申請者数は、9月末時点で216人であり、例年を上回るペースで増加	<ul style="list-style-type: none"> ・交付申請者数は452人で、例年を上回っているが、タクシーの利用実績の面では、横ばいの状況である。 		
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 地域の皆様の大切な移動手段である公共交通の利便性・安全性向上のための環境整備を図ります。また、公共交通を継続的に維持していくため、地域の皆さん自身による「乗って残す」「乗って活かす」を基本とした公共交通の利用促進の取り組みを推進します。		○取組による効果・残された課題			

令和元年度 重点目標管理シート

重点目標	良好な都市・自然環境の保全と形成		部局名	都市建設部	優先順位	4位
総合計画における位置付け	第2編 自然・生活環境 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第4節 緑豊かな魅力ある都市環境の創出		まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	戦略3 訪れたい・住みたいうえだ戦略 施策体系① 地域資源を生かした知名度アップと交流促進		
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(1)住みたい住み続けたいと思うまちづくりへの改革 ア移住・定住・交流人口を増やす体制の確立 イ多様な主体が市政に参画・協働する制度づくり		上田再構築プラン「7つの挑戦」における位置付け	人と自然にやさしい誰もが住みやすい環境のまちづくり		
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・災害の発生が危惧され、市民の生命・財産が脅かす恐れのある危険な場所に太陽光発電設備の計画が進められている。 ・城下町らしい風格あるまちなみを創出するため、住民と行政、関係する電線管理者が協働、協力して無電柱化に取り組む必要があります。 ・「歴史・文化基本構想」を基に、まちづくりに活用していく当市における歴史的風致を明らかにする必要があります。 ・「上田市景観計画」「上田市緑の基本計画」に基づき、景観や緑化への意識の向上させる取組が求められています。 					
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電設備の設置に関して必要な事項を定めることにより、立地に適した場所への導入を図り、生活環境の保全と豊かな自然環境の保全を図る。 ・無電柱化の推進により、景観、防災性の向上、安全性・快適性を向上させることができます。 ・文化財や街なみの維持・向上に向けた計画を策定することで、歴史まちづくり行政、観光振興を有効かつ効果的に進めることができます。 ・都市景観賞、花と緑のコンクールを通じて優良な取り組みを紹介・表彰することで、景観形成やまちの緑化への関心を高めます。 					
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
①	○太陽光発電事業の適正な立地への誘導を目的とした条例の検討	(1)4月～7月	(1)太陽光発電設備の適正な立地を目的とした条例制定を目指す。	(1)「上田市太陽光発電設備の適正な設置に関する条例」を制定した。(7月1日公布、8月1日施行)	(1)「上田市太陽光発電設備の適正な設置に関する条例」を制定した。(7月1日公布、8月1日施行)	
②	○景観及び防災性の向上を目指した新参町線無電柱化事業の推進	(1)4月～3月	(1)実施設計を完了させ、年内に工事を発注する。	(1)電線管理者や地下埋設物の管理者と協議しながら実施設計を取りまとめ中で、今後、工事発注に受けた設計積算を行う。	(1)実施設計を11月に完了させ、工事を12月に発注して2月に契約した。	
③	○歴史的風致向上計画策定の推進	(1)4月～3月	(1)歴史文化基本構想との連携を図り、来年度の認定を目指す。	(1)教育委員会の文化財担当との検討会議9回、歴史まちづくり関係課担当係長による意見交換会(7/30)を開き、素案作成を行った。 国(三省庁)との協議を2回(4月、7月)行った。	(1)作成した素案を基に、更に協議を行った。 ・教育委員会文化財担当との検討会議 16回 ・歴史まちづくり庁内意見交換会 2回(7/30、3/13) ・国(三省庁)協議 5回(4月、7月、10月、12月、3月)	
④	○景観・緑化に関する市民意識の高揚の促進	(1)4月～3月	(1)景観・花と緑 まちづくりフォーラムの開催(11/23) 染屋台グリーンベルトの緑化保全支援(調整事務・作業参加)	(1)パネルディスカッションなどの新たなプログラムを盛り込んだ内容を企画し、チラシ・ポスターを9月末までに関係機関に配布・周知した。 グリーンベルト内市所有地の倒木危険個所の点検整備を行った。	(1)景観づくり講演会ではパネルディスカッションを新たに企画。都市景観賞では4物件、花と緑のまちづくりコンクールでは13団体(個人)を表彰。来場者約100人超。 北沢の森、染谷の森では台風で被害を受けた危険木の伐採・除去を行うとともに、市民協働により緑地を保全管理した。	
⑤						
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 ・歴史ある城下町としてのポテンシャルを高め、市民にとって誇りの持てるまちづくりを進める。 ・景観のみならず、防災性の向上を目指した上田城跡公園へのメインアクセスの道路整備に着手することにより、地域を巻き込んだまちづくりに繋がる。			○取組による効果・残された課題 ・課題となっている事業計画の情報共有と条例の適正な運用が課題である。 ・地域で説明会を重ね、無電柱化の重要性に関する理解と関心が深まった。 ・歴史まちづくりに関する事業を取りまとめ、庁内一体的な事業の推進が課題である。 ・地域の特性を住民自ら理解し、景観形成の促進が課題である。		

令和元年度 重点目標管理シート

重点目標	コンパクトシティの形成に向けたまちづくりの構築			部局名	都市建設部	優先順位	5位
総合計画における位置付け	第2編 自然・生活環境 【安全・安心な快適環境のまちづくり】 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第3節 安全・安心に暮らせる環境の整備			まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	戦略4 人・地域の輝き戦略 施策体系④ 地域主体のまちづくりを進める地域内分権推進		
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	1 住みたい住み続けたいと思うまちづくりへの改革 (ア) 移住・定住・交流人口を増やす体制の確立			上田再構築プラン「7つの挑戦」における位置付け	人と自然にやさしい誰もが住みやすい環境のまちづくり		
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、都市をとりまく社会情勢は大きく変化しており、これまでのような拡大を指向した都市づくりから、都市機能の質的な充実、安全で安心な都市の形成、自然環境の保全などを重視する拠点集約型の都市づくりへの転換が求められ、昨年度「立地適正化計画」を策定しました。この計画にあわせた土地利用の誘導を図る必要が生じています。 ・近年の社会構造の変革による交通軸の変化や代替え道路の整備に伴い、「上田市都市計画マスタープラン」に基づき、都市計画道路見直し計画を策定しました。 						
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な社会情勢の中、上田市全域が魅力ある住みやすい都市として一体的かつ持続可能な都市づくりのため、市街地の無秩序な拡散を抑制し、既存ストックを活かしながら、それぞれの地域において都市機能の集積や充実を図る拠点集約型都市づくりを目指すと共に、民間事業者への誘導施策も講じながら、歩いて暮らせる健康都市を形成する必要があります。 ・策定された都市計画道路見直し計画に従い、都市計画道路の変更や廃止について都市計画法に基づく手続きを行う必要があります。 						
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 (いつ・いつまでに)	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
①	○コンパクトシティ形成に向けた誘導施策等の検討	(1)4月～3月	(1)「立地適正化計画」の区域設定にあわせた土地利用規制やコンパクトシティ形成に向けた施策の検討を行う。	(1)立地適正化計画に基づく届出について、一覧表を作成した。期末に向けて、届出の分析を行う。	(1)開発行為：21件217戸、建築行為等：12件149戸の届出をデータ化した。 また、人口の移動状況について自治会単位で調査委託を実施し、データ化した。		
②	○都市計画道路の変更または廃止する14路線について、都市計画法に基づく手続きの完了	(1)4月～3月	(1)都市計画法に基づく変更または廃止の手続きを完了する。(上田地域14路線 県5路線、市9路線) 都市計画道路の変更または廃止に伴う都市計画用途地域の変更を完了する。	(1)上田市の都市計画審議会に向け、9月に県へ事前協議書を提出した。	(1)令和2年2月20日に都市計画道路及び都市計画用途地域に関する告示を行った。		
③	○上田都市計画用途地域の見直しの検討	(1)4月～3月	(1)「上田市都市計画マスタープラン」や「立地適正化計画」に基づき用途地域見直しの検討を進める。	(1)用途地域における土地利用分析について業務委託の発注を準備しており、その結果から調査地区の検討を進める。	(1)他の関連事業の進捗に併せ、土地利用分析調査について再度検討した。		
④							
⑤							
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 ・都市計画道路の変更や廃止について都市計画法に基づく手続きを行うことで、人口減少社会の到来に向けた“まちづくり”について、住民意識の向上が図られます。			○取組による効果・残された課題 ・居住誘導区域外での開発や建築行為が多く、今後の誘導施策が課題である。 ・都市計画法に基づく手続きにおいて関心が薄く、住民の意識向上を図ることが課題である。 ・用途地域の変更は、関連事業の進捗を考慮しながら、指定地域全体を一体的に検討することが課題である。			

令和元年度 重点目標管理シート

重点目標	緑豊かな健幸都市空間の創出			部局名	都市建設部	優先順位	6位
総合計画における位置付け	第2編 自然・生活環境【安全・安心な快適環境のまちづくり】 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第4節 緑豊かな魅力ある都市環境の創出			まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	戦略2 結婚・子育てしたい戦略 施策体系② きめ細かな出産・子育て支援推進		
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(1)住みたい住み続けたいと思うまちづくりへの改革 ア移住・定住・交流人口を増やす体制の確立 (2)支える財政基盤の改革 ウ市有財産の適切な管理と利活用			上田再構築プラン「7つの挑戦」における位置付け	子供は地域の宝、すくすく育つ安心子育てのまちづくり		
現況・課題	・都市公園における公園施設の改築・更新を行ない安全・安心に利用できるような公園施設の維持管理を行う。また、観光の拠点である上田城跡公園の施設整備や適切な公園の維持管理を実施し来園者が安全・安心・快適に過ごせるようにしていく必要があります。						
目的・効果	・都市公園の整備、遊具の改築・更新、花のおもてなし事業などにより、子育てしやすい環境整備を行い楽しいまちづくりを進めます。 ・上田城跡公園内の施設改修、適切な樹木の維持管理及び花壇整備によって、安全・快適な公園づくりを目指します。						
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
①	○都市公園等の施設の改築・更新、適正な維持管理 (1) 都市公園の遊具の改築・更新	(1)4月～3月	(1)長瀬西組公園の遊具の更新	(1)地元自治会及び地域協議会との協議を行い、11月中旬の入札予定。	(1) 遊具の配置再検討により工事が遅延したため繰越となり4月末完了予定。		
②	○子育て支援・身近な公園改築・更新事業の推進 (1) 子育て世代が楽しめる公園への施設整備	(1)4月～3月	(1)染谷第1公園、長池公園、丸子ベルパークの公園施設の改築・更新および遊具の新設	(1)丸子ベルパークは発注済、染谷第1公園は10月中旬に入札、長池公園は11月中旬に入札予定。	(1) 丸子ベルパークは2月完了、染谷第1公園及び長池公園は3月完了した。		
③	○市民協働による「花のおもてなし事業」の推進 (1) 全国都市緑化信州フェアと連動した花・緑化活動の推進 (2) FM長野エバーグリーンキャンペーン及び中心市街地のプランター植栽	(1)4月～6月 (2)5月～11月	市民協働による花植え (1)緑化フェア松本会場への参加及び、街中への花壇・プランターの設置 (2)サンパチェンス 700本植栽 中心市街地のプランターへ2,000本植栽	(1)花フェスタ開催にあわせ、信州花壇の出展、市内2カ所への特設花壇設置、大手通りへのプランターを設置した。 (2)FM長野の植栽イベントに協力し、城跡公園内にサンパチェンス700本植栽した。商店組合との協働により、中心市街地に設置するプランターに花苗1,200本を植栽した。	(1)緑化フェアに合わせ市内2カ所（城跡・駅前）に特設花壇、大手通りにプランターを設置し、都市緑化活動を啓発。松本会場に出展した上田市花壇は信州花壇の中で1位を獲得。 (2)城跡公園へのサンパチェンス植栽（約700本）、中心市街地プランター用の花苗配布（約1,900本）により、まちなかを花で彩った。		
④							
⑤							
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 ・4月に開催される花と緑の全国的なイベント「第36回全国都市緑化信州フェア」を造園協会等と協働で盛り上げる。 ・市民協働による花苗植栽により、花に彩られ、緑豊かな潤いのあるまちづくりの推進が図られる。			○取組による効果・残された課題 ・公園利用者が安全で安心して利用できる環境整備が図れた。 ・市民協働による都市緑化の推進が図れた。			